

学校名：^{いちのかきしりつぎるさわちゆうがっこう}一関市立猿沢中学校

校長名：川村 均

所在地：岩手県一関市大東町猿沢字上ノ洞22

電話番号：0191-76-2122

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本学区猿沢地域は、一関市大東町の西部に位置する。四方を山に囲まれた盆地を呈し、中央を流れる猿沢川の周辺の扇状地に住宅が散在する農村地帯である。農業も経営規模が小さく大部分は兼業農家である。

保護者や地域住民の教育に対する関心が高く、協力的で、諸行事への積極的な協力など生徒の学力向上と健全育成のために一体となって取り組んでいる。

その一方で、地域と生徒は、学校通信や大会参加の支援などで間接的なつながりは感じながらも、直接触れあう場面は少なく、つながりを実感する状況には至っていない実態がある。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	1	1	1	0	3	
生徒数	男	6	10	8	0	24
	女	3	8	15	0	26
	計	9	18	23	0	50

教員数 8名（保健体育科 1名）

運動部活動の状況

実施運動部名	部員数			外部指導者数
	男	女	計	
卓球	8	11	19	1
ソフトテニス	0	15	15	1
野球	16	0	16	1
合計	24	26	50	3

II 活用事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

外部指導者と学校・保護者が連携しながら日常の学習・生活を含めた部活動指導を行う体制を整え、地域の卓球経験者による活動支援や地域のイベントへ運動部単位で参加する活動を通して、子どもたちが直接地域の住民と触れあう機会を設定した。その結果、子どもたちは自分たちの活動が地域の住民に認められることを実感する中で、「地域の一員」としての自覚をもつことができ、また地域住民も「我が地区の子どもたちの活躍」として様々な成果をとらえるようになり、「学校と地域」のみでなく「地域と子ども」のつながりづくりに成果があった。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

地域と子どものつながりを深めるための指導について

～体制の整備と地域イベント参加を通して～

(2) 研究テーマ設定のねらい

当地区は、保護者の学校教育に対する関心が高く、学校行事・部活動等においても大変協力的である。外部指導者も学校の教育方針を大切にしながら子どもの指導に当たり、大会における成果だけでなく、学習や生活指導など学校生活全体により影響を与えている。

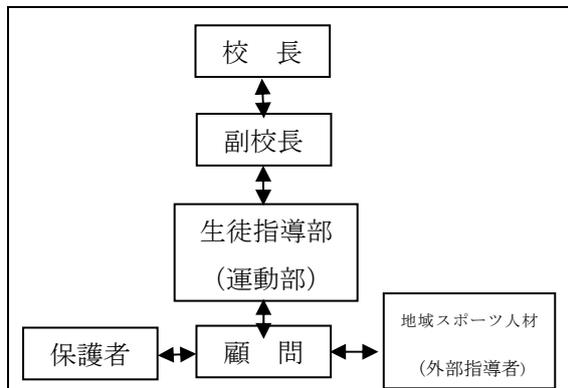
しかし、普段地域と子どもたちの直接のつながりは強いとはいえ、地域でも大会等の成績は知っていてもその子どもたちは知らない。また子どもたちも地域に支えられている意識はあってもそれに対する感謝の気持ちを表現する場や積極性も持てないでいる。

そこで、子どもを指導する体制を確認しながら、中学生としての資質を向上させるとともに、外部指導者を窓口として地域と子どもたちが直接触れあう機会をもたせることにより、子どもたちの地域の一員としての意識を高め、学校と地域のみでなく、地域と子ども

のつながりをつくりたいと考えた。

(3) 取組体制

学校の組織を基本として、



(4) 本事業における主な取組

平成22年度	①平成22年4月 ・新年度の体制及び方針の確認
	②平成22年5月 ・外部指導者との指導方針の確認
	③平成22年6月～11月 ・指導方針による指導の実践
	④平成22年10月 ・地域イベントへの参加
	⑤平成22年12月 ・研究のまとめ

- ・一人一人の個性を尊重してその子にあった指導を行う。
- ・気力・体力・精神力，マナーを養い，社会に出ても頑張れる人間にする。
- ・子どもが自ら考え，解決策を見い出すよう支援する。
- ・卓球と学習の両立を図る。

イ 外部指導者の指導方針について

「猿中の五心」を受け，外部指導者が指導のねらいについて確認し，学校・保護者で共通理解する。

外部指導者が生徒の個性を見極め，生徒自身が考え行動できる力を付けるよう，普段の練習から支援している（写真1）。



【写真1 指導の様子】

2 活動及び活用事例

(1) 学校・家庭・外部指導者による体制の確認

① 目的

上記の三者が学校の部活動への基本方針や生徒指導等生徒の健全育成について確認し，指導の一貫性をもたせる。

② 具体的な指導方法や取組の様子

ア 生活信条の確認

猿沢中学校の生活信条「猿中の五心」

・すみません ・はい ・おかげさま
・私がやります ・ありがとう

上記を基に，外部指導者と指導の重点について共通意識をもつ。

③ 成果・課題

学校・家庭・外部指導者が，学校の目標を軸にしながら指導の方針を共通理解することにより，子どもを取り巻く大人が同じ視点で指導ができる。また，生徒自身の考えを積極的に引き出す指導により，生徒の自主性が高まっている。

(2) 学校と家庭（部の保護者）の連携について

① 目的

保護者に学校及び部の指導方針を伝え，学校・家庭の両面で一貫性のある指導を構築することや生徒が多くの保護者と触れあう中で社会性を身に付けることなどを主な目的とする。

② 具体的な指導方法や取組の様子

ア 保護者会の設置

保護者を結成し、家庭・学校・外部指導者との合同会議によって、指導方針や保護者の自主的な支援体制が確認される。

③ 成果・課題

生徒は、多くの保護者と触れあうことで、マナー等の社会性の一端を実践することができるとともに外部指導者の指導により「支援に対する感謝の気持ち」をもてるようになってきた。また、保護者も「同じ部の子ども」としてよい点も改善点も含め指導できる信頼関係が構築された。

(3) 地域の卓球経験者の協力

① 目的

外部指導者は本校OBであり、地域内の卓球経験者とのつながりも深い。そのような人材に活動へ参加・指導していただくことで、生徒が地域の方々と卓球を通して触れあい、卓球の技術力の向上と地域とのつながりを図る。

② 具体的な指導方法や取組の様子

外部指導者の要請に呼応した地域の卓球経験者が支援者として活動に参加し、顧問及び外部指導者の指示のもと、主に生徒の技術的な指導についての支援をする。

外部指導者の外、2～3名の支援者が参加している（写真2）。



【写真2 支援者による指導の様子】

③ 成果・課題

外部指導者が中心となり、共通理解をもってより多くの生徒に直接指導できる時間が確保でき、生徒の技術力向上に大きな力となっている。

また、生徒にとっては地域の方々と触れあう機会となっており、あいさつ・言葉遣い等社会的なマナーを実践的に学ぶ機会となっている。

【活動から学んだこと（生徒感想より抜粋）】

- ・感謝の気持ちをもつこと
- ・あいさつをきちんとすること
- ・あきらめないということ
- ・卓球の基礎

これにより、生徒が地域の方々にあいさつすることに気後れすることが少なくなり、さらに地域とのつながりを感じながら活動に取り組めるようになっている。

支援者はボランティアであり、指導者の生徒を思う気持ちに支えられているのが現状である。

(4) 地域イベントへ卓球部の参加

① 目的

地域から支援されている事について生徒は理解しているが、地域の方々へその気持ちを直接表す機会は少ない。また、地域の方々も情報としての生徒の活躍は知っているもののその子どもたちの普段の活動に触れる機会は少ない。

外部指導者と学校が連携しながら地域のイベント（猿沢秋祭り）に部単位で参加する事により、生徒が自らの活動を地域の方へ紹介しながら、地域へ感謝の気持ちを表すことで、生徒の社会性の育成や、地域とのより深いつながりをつくる。

② 具体的な指導方法や取組の様子

ア 参加についての話し合い

猿沢秋祭り実行委員会からの依頼を受け生徒・顧問・外部指導者で参加について話し合った。

どれだけの成果が得られるか、生徒はイメージできない状況もあったが、「普

段から支援をいただいている地域からの依頼に応えよう」という考えは共通しており、参加を決定する。

イ 参加に向けての準備

屋外での公開であったため、卓球台の移動・設置、足場の整備等は全て生徒が行った。

ウ 当日の様子（写真3）

・生徒同士による模範試合

猿沢秋祭りの会場（屋外）で、生徒同士による卓球の模範試合を披露した。

生徒は本年度も全国大会への出場を果たしており、高いレベルの模範試合に、たくさんの拍手が送られた。

・飛び入り参加者との対戦

見学していた中で、希望した住民と生徒とのエキシビジョンマッチを行った。

好プレー珍プレーが続出し、会場が盛り上がった。

つ人々がさらに多くなった。そのことは、学校への理解にも結びつき、文化祭における地域展示コーナーへの出品数や資源回収量が例年より多くなるなど、地域住民全体の積極的な協力が結びついたものと思われる。

- ・卓球は室内で行うスポーツなので、あまり地域の方はわからないと思う。この卓球の模範試合を通して、地域の方々の交流を深め、これを見て卓球というスポーツを私たちがどれだけがんばっているかを見てほしいと思った。
- ・地域の人たちが声援してくれて、練習の成果を見せることができた。
- ・全国大会より緊張した。

【参加生徒の感想（抜粋）】

今回の地域イベントへの参加は、生徒が地域とのつながりをもつ意味で大きな成果があった。それが一過性のものにならないよう、外部指導者と連携しながら、生徒がつながりを自覚しながら活動していく工夫を継続的に行なってきたい。

3 今後の展望

今回の取組によって「地域と子ども」のつながりを深めることができた。

外部指導者に、競技力向上だけでなく地域と学校、生徒を結ぶ窓口としての役割を果たしていただいた。

「学校と地域の連携」のみではなく、「地域と子ども」との関係づくりを進めることによって、競技力の向上にとどまらない、子どもの人間的な成長が期待される。

その意味においても、その地域との窓口となる「地域スポーツ人材（外部指導者）」の存在は、生徒にとって生涯スポーツを含めた、実際に「生き方」を学ぶことができる地域の貴重な人的財産になると思われる。



【写真3 模範試合の様子】

③ 成果・課題

生徒は最初戸惑いもあったが、準備を重ねていく中で意識が高まり、当日の見学者の大きな反響を体感し、新聞等でも取り上げられることにより、「自分たちが地域に大きく貢献できた」という自覚をもつことができ、大きな自信に結びついた。

地域とのつながりについて、学校関係以外の地域内での各種会合においても、生徒の活動が大きく賞賛され、地元の中学生に誇りをも